



日本家族看護学会 ニュースレター

第1号

発行日
平成20年12月8日発行

第15回学術集会を終えて

日本家族看護学会第15回学術集会は、平成20年9月13・14日に「地域社会とつながる家族看護実践・教育・研究」をメインテーマとして、慶應義塾大学湘南藤沢キャンパスで開催いたしました。510名（会員274名、非会員221名、学生15名）の方々にご参加者いただきました。会場までご不便をおかけいたしましたが、多くの方々に参加いただき大変感謝いたしております。有難うございました。

プログラムは、演題発表（口演25題、示説60題）、特別講演、教育講演、交流セッション、ランチョンセミナー、そして市民に公開された講演会を用意しました。どの会場でも活発な交流風景がみられました。



学術集会終了時に、挨拶をされる
原礼子学術集会長

発表者、講師の皆様、第15回学術集会の企画運営に携わっていただいた方々に改めて厚くお礼申し上げます。

慶應義塾大学看護医療学部 原 礼子

目次

- 第15回学術集会を終えて
— 第15回学術集会長
慶應義塾大学看護医療学部
原礼子—
- WEB NEWS 発信
— 広報・渉外担当
岐阜県立看護大学 泊祐子—
- 日本家族看護学会第15回学術集会に参加して
— 兵庫県立こども病院
文字智子—
- 日本家族看護学会第15回学術集会に参加して
— 愛知医科大学看護学部
宮地由紀—
- 第16回学術集会のお知らせ

NO.1 Web news 発信

会員みなさまに初めてWebnewsをお届けします。広報・渉外委員会では、会員の皆様への速やかな情報提供・会員同士の情報交流を目指して、昨年度は見やすいHPの作成、更新をしてきました。今年も、学術集会の様子などをWeb newsで発信することを試みております。学会員でも日程の都合など学会参加できないときがありますが、学会の様子を知りたいと思われる方もおいでかと思ひます。

遅くなりましたが、9月の第15回学術集会の様子を中心に、第1号を発信いたします。学術集会にご参加できなかった会員の皆様にも学会の様子を少しでもお伝えできればと思ひ

参加者の方のメッセージを掲載しております。

どのようなNewsがよいのか、皆様のご意見をお聞きしながら進めたいと思ひます。

広報・渉外担当：泊 祐子



1161学術集会の会場である慶應義塾大学
湘南藤沢キャンパスθ館の風景

お知らせ

第6回家族看護セミナー

in 名古屋の開催

日時

平成21年3月1日（日）

10：00～16：00

場所

名古屋大学医学部保健学科
（大幸キャンパス）

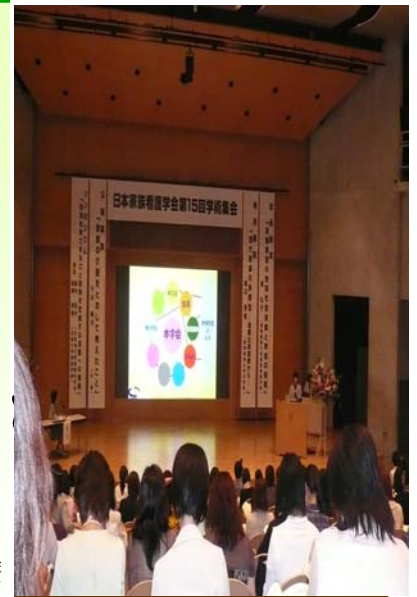
第15回日本家族看護学会に参加して

兵庫県立こども病院 文字智子

9月のはじめに、藤沢の慶応大学キャンパスで日本家族看護学会が開催されました。私は、今年度家族看護学会に入会し今回ポスター発表をさせていただきました。演題の中には、大学教員と臨床家の共同研究や、方法論を展開した事例報告、家族を取り巻く現状報告などがあり、興味深かったです。また、特別講演やセミナー、総会などから、家族看護学会が年々大きな組織に発展し、より国際的で実践に根ざした活動を目指していること、関心のある人々への門戸が大きく開かれていることを実感しました。

そして、臨床に携わる人が学会に参加する意義の大きさを強く感じました。実際参加して他の臨床家や教員の方と直接交流すると、個別のアドバイスや新しい視点をいただくことができ、紙面上での自己学習とは異なる収穫がありました。実践に携わる人が、早い時期から学会などで部署外の人と交流すれば、視野を広げたり看護活動への意欲を高めるチャンスになるでしょうし、ベテランの人が貴重な経験をふまえて現場の声を発することは、非常に重要であり、今求められていると思われます。家族看護学会は初めての参加でしたが、さまざまな立場の方に世代を超えて交流していただき、よい刺激をうけた2日間でした。

家族看護学会の活動が今後ますます充実し、それを通して多くの交流が生まれ、療養する人々と家族によりよい健康支援ができるよう願っています。そして、私自身も今回の学びを今後の看護活動に活かしたいと思います。



学会22日目のシンポジウムの様子

日本家族看護学会第15回学術集会に参加して

愛知医科大学看護学部 宮地 由紀

秋らしい空のもと、平成9月13日、14日の2日間、慶應義塾大学湘南藤沢キャンパスにて「地域社会とつながる家族看護実践・教育・研究」をメインテーマに第15回学術集会が開催されました。

今回、このメインテーマにもあるように地域社会へつながる家族看護学のあり方、看護実践について考えていく上で、学会2日目のシンポジウムでは様々な領域で活動されているシンポジストの講演を聞くことができた。講演において、現代の社会背景の中で、家族形態、家族の機能が変化している中で、「家族の歴史をひもといていくこと」や「家族の歴史を大切にしていこう」と、またその中から家族の関係性の再構築がみられ、家族機能がスムーズにいくことにもつながることを改めて考えることができたように思う。また、地域社会にどのように家族看護実践を展開していくのかという視点においても、公的な制度が変化をしてきているなかでいかにインフォーマルなサポート力を引き出し、活用していくべきか、またそのためにどのような職種との協働が必要になってくるかを考えていくこともできたように思う。

このことは、私自身の研究テーマでもある「祖父母と孫の関係性」を深めていく上でも多くの示唆を得られたと思っている。現代の社会背景が変化する中で、祖父母と孫の関係性や役割も変化していることはいままでのないが、その中でどのような関係性というものが良好といえるのか、また関係性を保つために他のどのようなサポート力が必要となるのかなど今後さらに深めていきたいと考える。この学会で得られた視点を生かし、今後も日々教育、研究に励んでいきたいと思う。

日本家族看護学会 第16回学術集会のご案内

家族看護実践の発展に求められる教育

～ 基礎教育から専門看護師教育まで ～

会長 泊 祐子 (岐阜県立看護大学)

会期 2009年9月5日(土)、6日(日)

場所 高山市民文化会館(岐阜県高山市)

第3回教育セミナーの開催

日時 学術集会初日午前10～12時
場所 高山市民文化会館小ホール

プランナー 大西文子教授
(藤田保健衛生大学)